

## この本を読むみなさんへ

「話を聞いていただけるだけでうれしいです。」

と、65年前の記憶をたどり、けんめいに語っていただきました。

「思い出したくもないが…」と、重い口を開いてくださった方、亡くなられた友人や家族を思い浮かべ、涙ながらに語ってくださった方、過ちを信じ込まされたことに今も憤りを感じてみえる方、そんなお一人お一人の体験の記録がここにあります。語られた体験こそ、まぎれもない真実であり、そこから目をそむけてはならない、伝えなければならないと思いました。

平成23年度に八名小創立50周年を迎えるにあたり、記念誌として学区の副読本「わたしの八名」を発行することにしました。その編集資料として、全戸に戦争時代の体験を募集したところ、52名の方の協力が得られました。それぞれに貴重な体験記録ばかりで、そのすべてを残すために記録集としてまとめることにしました。協力していただいた方の多くは、手記で寄せられましたが、ご高齢の方が思いを紙面に書き表すのは大変なことと推察し、32名の方については直接取材もさせていただきました。ありがたかったのは、多くの方が取材を受け入れ、実名入りで掲載してよいとおっしゃられたことです。今、子どもたちに語っておかなければ、という思いがひしひしと伝わってきました。

そんな思いに少しでも応えるべく、編集は次のようにしました。

- ・掲載は、年齢順（満年齢は平成22年度末の学齢）としました。それぞれの年代で体験されていることが異なり、同年代では同じような体験が多くなる傾向があったからです。年代の違いから、当時の世相や時代の流れ、考え方がみえてくると思います。
- ・できるだけ読みやすくするため、各方面からの協力を得て、写真や資料を多く入れ、難しいところには説明を加えるようにしました。

それでも、児童の皆さんがこの記録集を読み取るのはむずかしいものと思います。特に、資料は出典によって表現や数字などの違いがあります。いまだに真実がはっきりしないものもあるからです。そんな疑問にぶつかったら、みなさんが自分の力でさらに調べていってほしいのです。そして、日本が引き起こした戦争の歴史をひもとき、国が犯した過ちを知るきっかけにしてほしいと思います。52名の皆さんのまぎれもない真実をもとに。